

# 2024年の石炭市場見通し

- 中印は高需要が継続も、先進国需要は弱い状況が続く

---

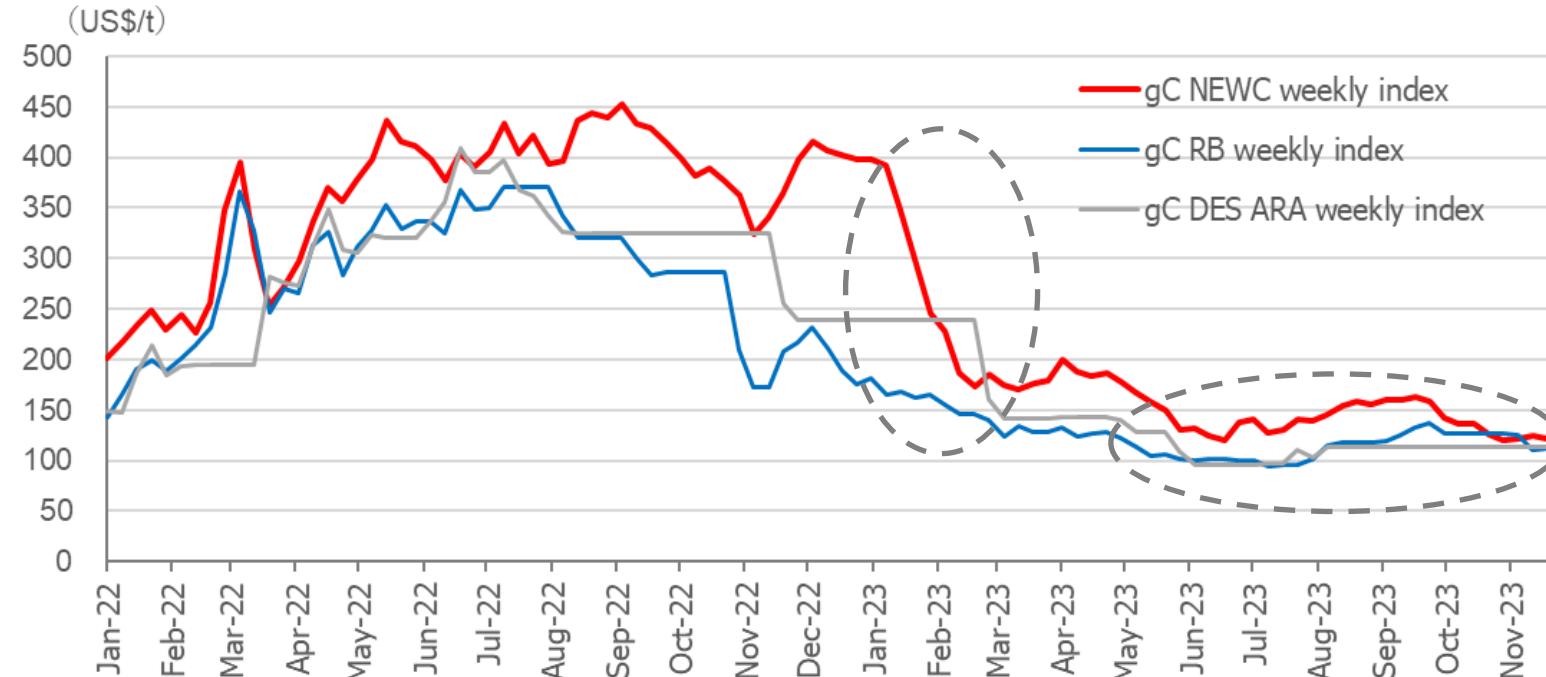
一般財団法人日本エネルギー経済研究所

資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット  
石炭グループマネジャー 研究主幹 高橋 祐明

# 本報告のポイント

- ✓ 一般炭及び原料炭市況は、ウクライナ侵攻後の2022年には一時トン当たり400ドルを超えていたが、2023年に入り下落しており、豪州一般炭輸出価格(年平均)は170ドル、豪州原料炭輸出価格(年平均)で250ドル程度となる見込。2024年については、豪州一般炭輸出価格(年平均)で130ドル、豪州原料炭輸出価格(年平均)で250ドル程度と予測。  
→この水準でも2022年以前の過去10年では高いレベル。
- ✓ 2023年の石炭輸入貿易量は、14.7億トンと前年13.7億トンから1.0億トン程度増の見込。2024年は、前年同様に中国・インドでは旺盛な石炭需要対応として国内炭増産を図りながら、それを補う形となる輸入炭需要も高い状態が続く。一方、先進国(日韓・EU)では、電力向けを中心に一般炭需要の弱い状況が続くと見ており、2024年の石炭輸入貿易量は、前年微増の14.9億トンと予測。
- ✓ 近年、資源各社は石炭資源について、権益の売買や組織再編(石炭事業のSpin off)など再評価を進めていること、また輸出国政府の政策変化が将来の石炭供給に与える影響にも注意していく。

# 一般炭価格の動向



出所: globalCOAL (a division of Global Commodities Holdings Limited)

- 2023年初、前年の価格高騰を受け高値となっていたが、世界的な暖冬や天然ガス需給の緩和から需要側で石炭高在庫となるなど、SPOTの豪州一般炭輸出FOB価格は第一四半期末には200ドル/トンを切る水準になった。
- その後第2～3四半期にかけ上記の在庫過多に加え、景気の下振れから電力消費も伸び悩み市況は150ドル/トンを挟んだ水準で推移。
- 足元で暖冬予測となっていることから一段の下げ圧力が高まり11月に入ると120ドル/トン台に下落。インドが高まる電力需要に対する国内炭供給懸念から来年6月まで輸入炭増加を政府が指示したことで需要の上振れはあるものの、世界的に需要が弱いこと、また供給側の生産回復もあり先安感が広まっている。

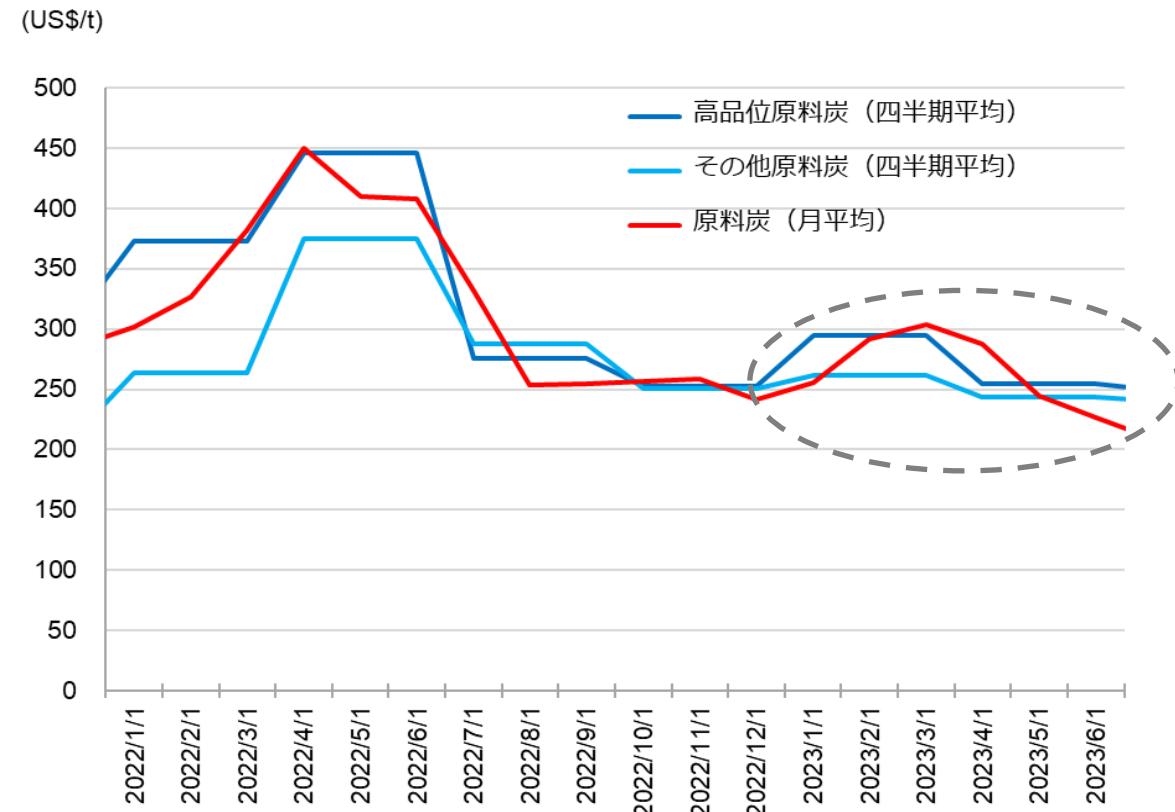
## 豪州一般炭輸出FOB価格(平均)

2022年(実績*)	262 ドル/トン
2023年(見込*)	170
2024年(予測)	130程度

\*1::Resources and Energy Quarterly | Department of Industry, Science, Energy and Resourcesが公表するデータを米ドル換算したもの→2024年は弊所の予測。

# 原料炭価格の動向（豪州輸出価格）

- 2022年の市況高騰の一因となった豪州での天候影響から、各鉱山の生産が回復し2023年の原料炭供給は緩和してきている。
- 世界の粗鋼生産量は、2023年10月までの累計1,567百万トンで前年比横ばい。この中でインドが前年同期比+12%で全体をけん引する形。他国は横ばいあるいはマイナス成長。
- このため、原料炭市況は昨年の供給タイトによる市況高騰から、需要後退により価格が下方修正される形となっている。
- このような背景から豪州原料炭輸出FOB価格は2023年1-3月には300ドル/トン程度で推移したが、4-6月には200ドル/トン台に下落。
- 下落を受けインドのSPOT調達が活発化。これにより価格は反転しSPOT価格は、9月に300ドル/トンを超えるレベルに回復し、足元も同水準で推移。
- なお中国は年初から豪州炭禁輸を解除しているが豪州からの輸入量回復は緩やか。同国の粗鋼生産も前年並みから減少傾向で調整局面にある模様。



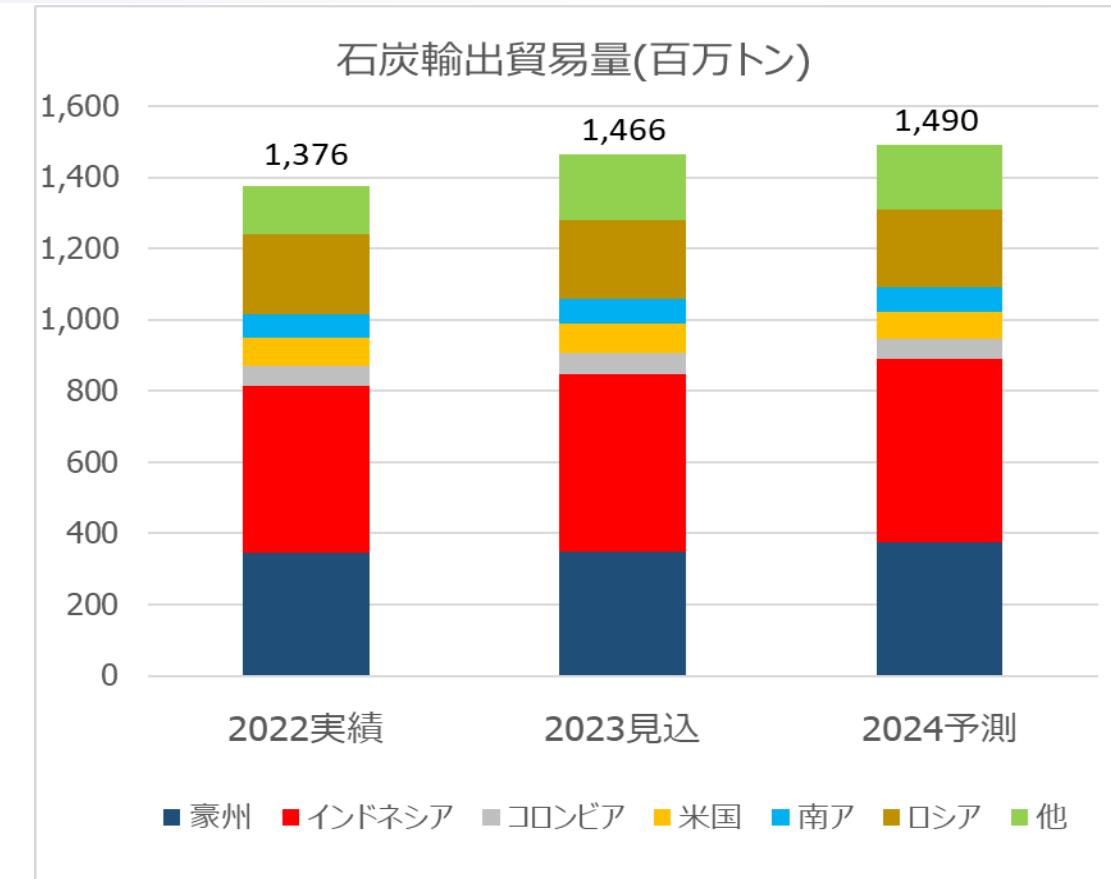
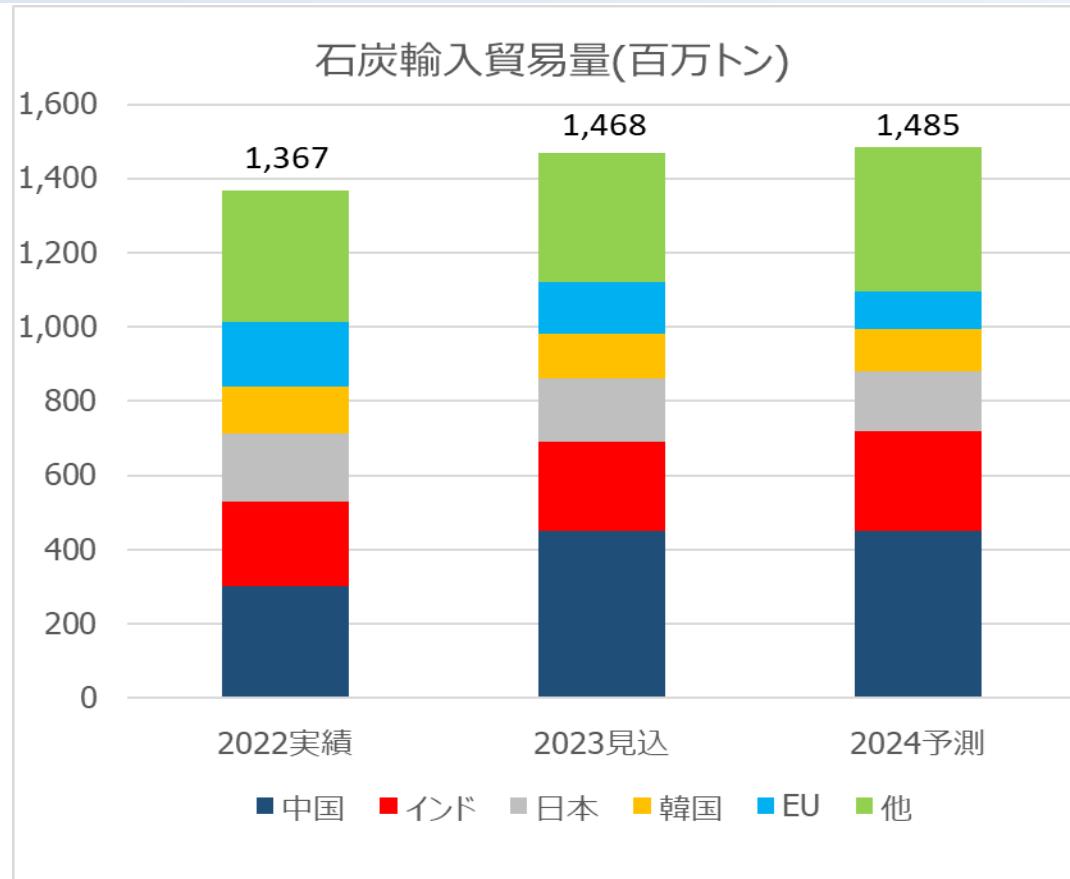
出所: Department of Industry, Science, Energy and Resources (DISER), Australia Government, "Resources and Energy Quarterly – September 2023"

## 豪州原料炭輸出FOB価格(平均)

2022年(実績*)	322 ドル/トン
2023年(見込*)	270
2024年(予測)	250程度

\*1::Resources and Energy Quarterly | Department of Industry, Science, Energy and Resourcesが公表するデータを米ドル換算したもの。→2024年は弊所の予測。

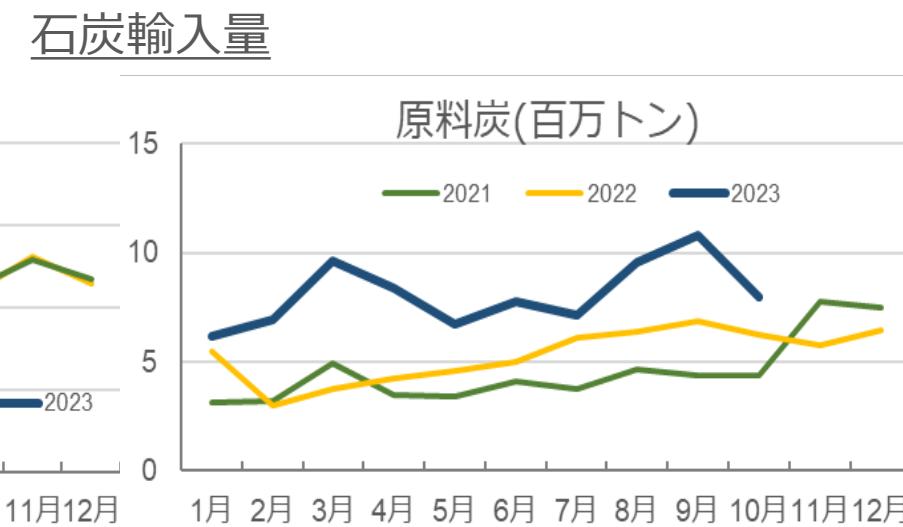
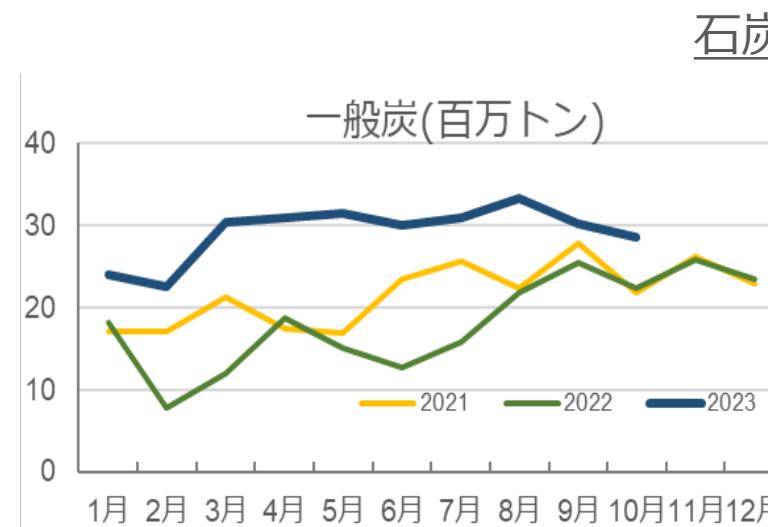
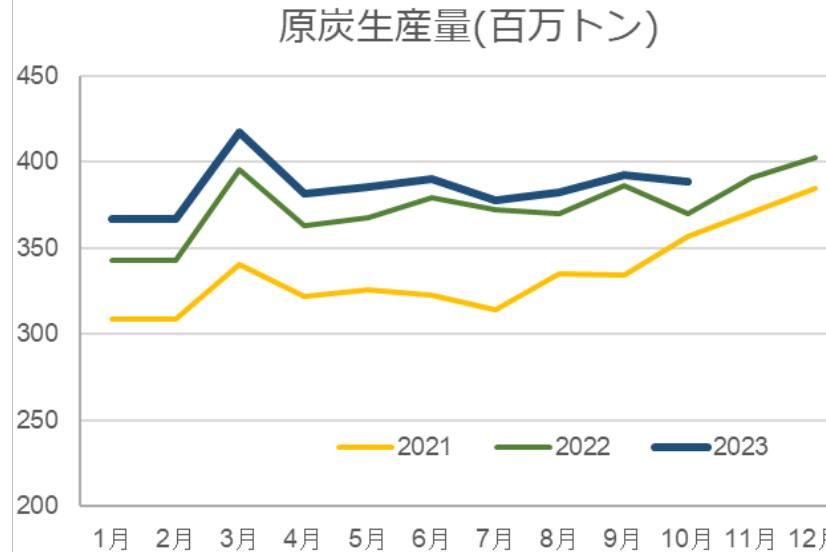
# 石炭貿易



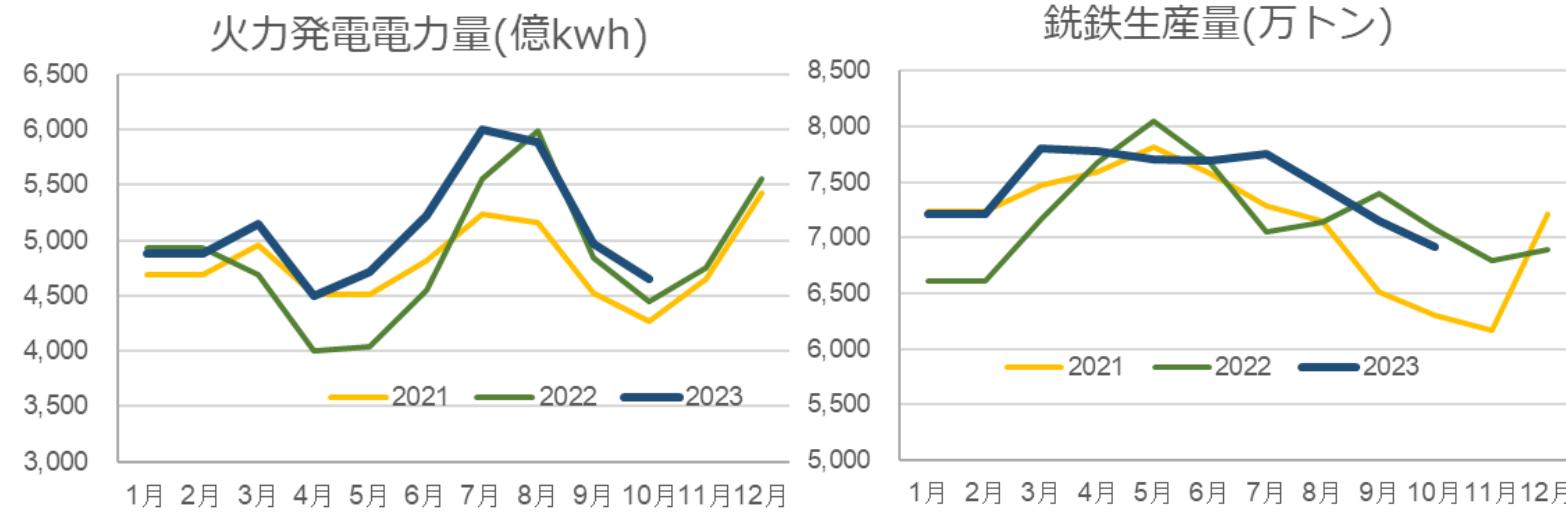
出所:IEA Coal 2023, Coal Market Update July2023, 各国通関データを基に弊所で推定

- ✓ 輸入は、中・印の増加が全体を押し上げる一方、先進国(日韓・EU)は減少。2024年はこの増減がバランスし、その後輸入量が減少すると予測。
- ✓ 輸出は、インドネシアが全体を牽引。豪州は2022年の豪雨影響から生産が復旧しているが、日韓の需要減から供給量は頭打ち。2024年もこの2か国が輸出のメインサプライヤは変わらず。

# 需要国の状況（中国）



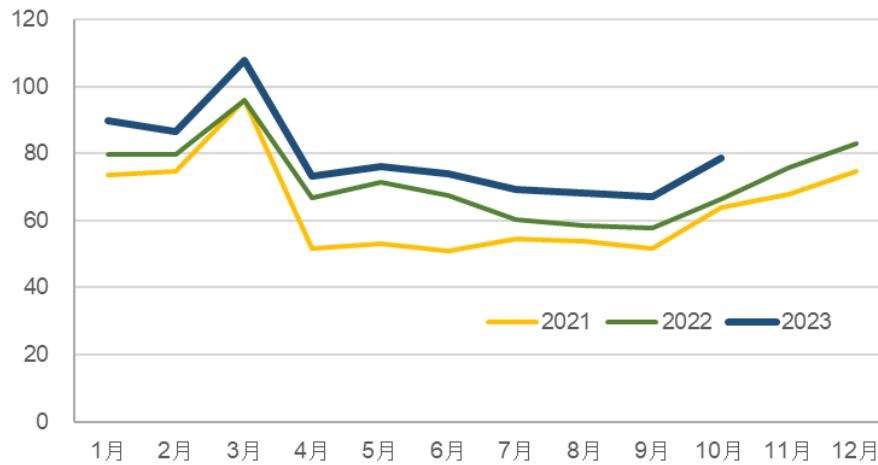
- 原炭生産量(1-10月:カッコ内は前年比)  
3,850.0(+157.7)百万トン
- 輸入量(1-10月:カッコ内は前年比)  
一般炭:292.3(+123.0)百万トン  
原料炭:81.1(+29.5)百万トン
- 国内需要  
電力を中心に堅調。銑鉄生産は9月以降、累計で前年比を下回る。  
炭鉱事故の影響から国内炭は一部で供給減。これを輸入炭で補完。



出所: 国家統計局、月次統計

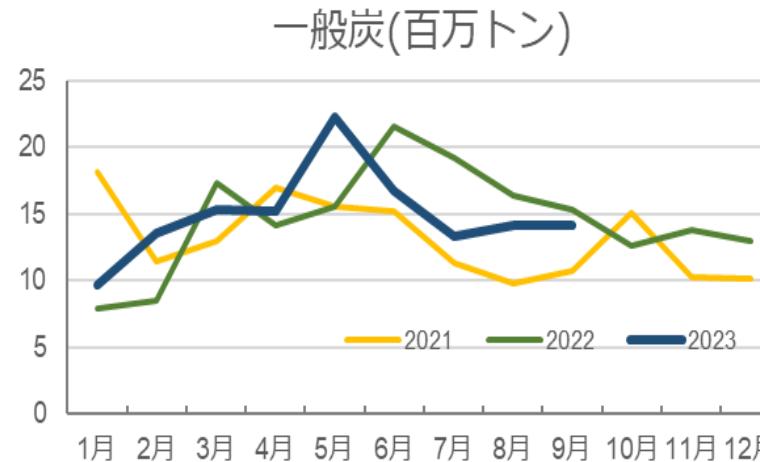
# 需要国の状況（インド）

原炭生産量(百万トン)

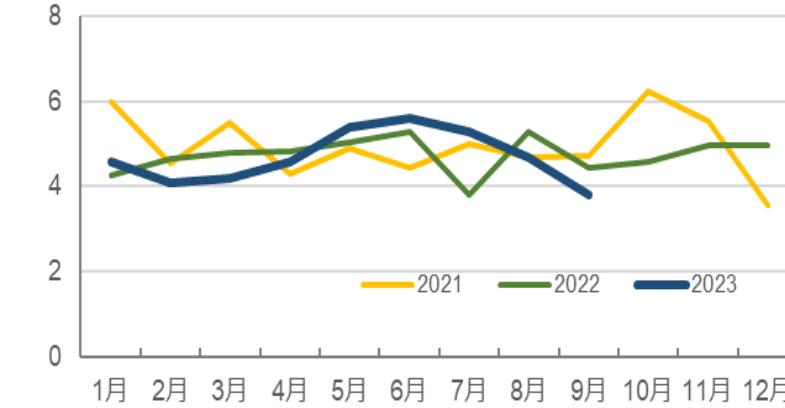


出所: Ministry of Coal. Monthly Statistics Report

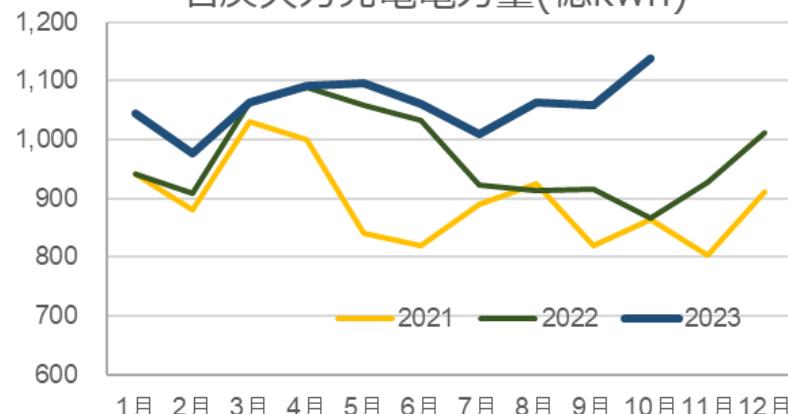
石炭輸入量



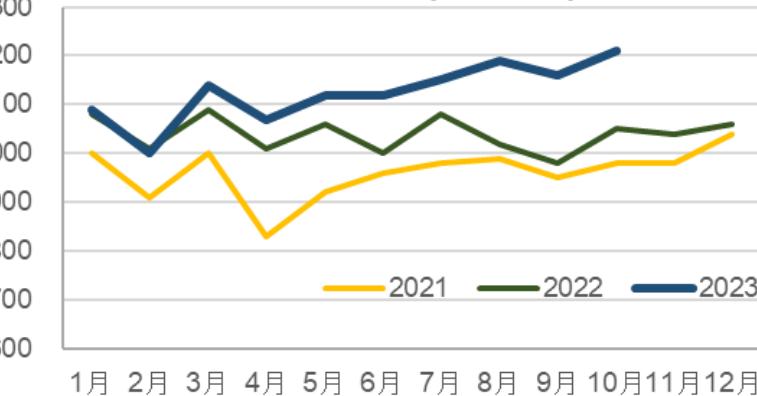
原料炭(百万トン)



石炭火力発電電力量(億kwh)



粗鋼生産量(万トン)



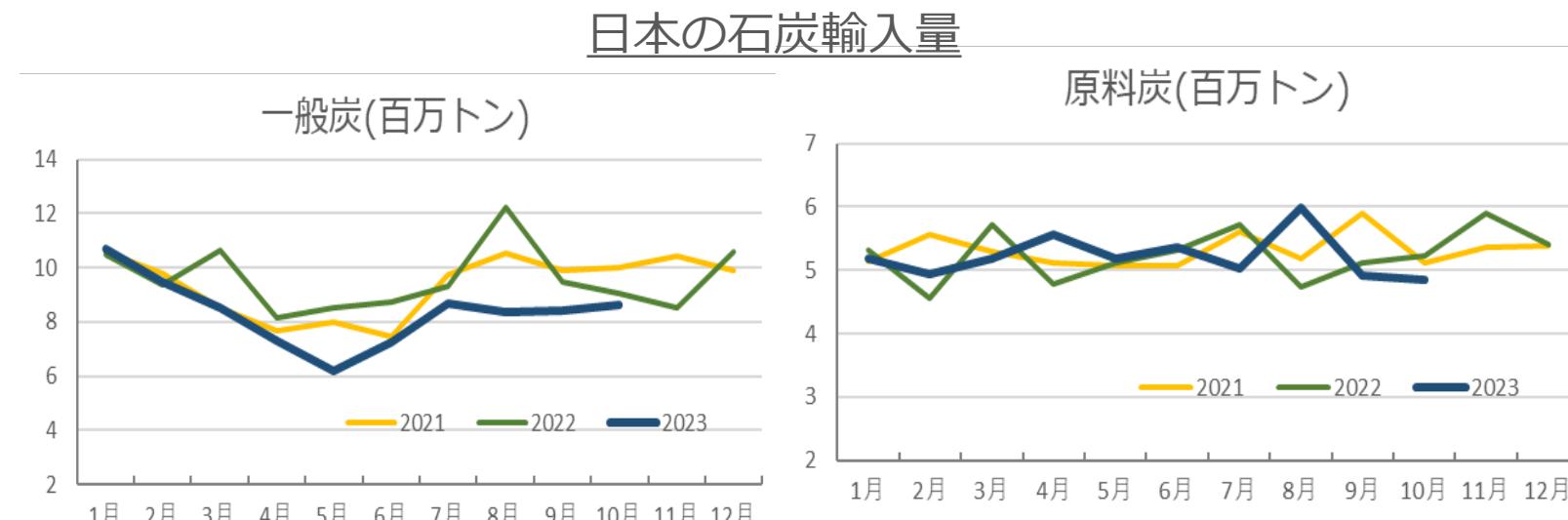
注： 2023年10月は速報値

出所: CEA, Executive Summary on Power Sector

出所: World Steel Association

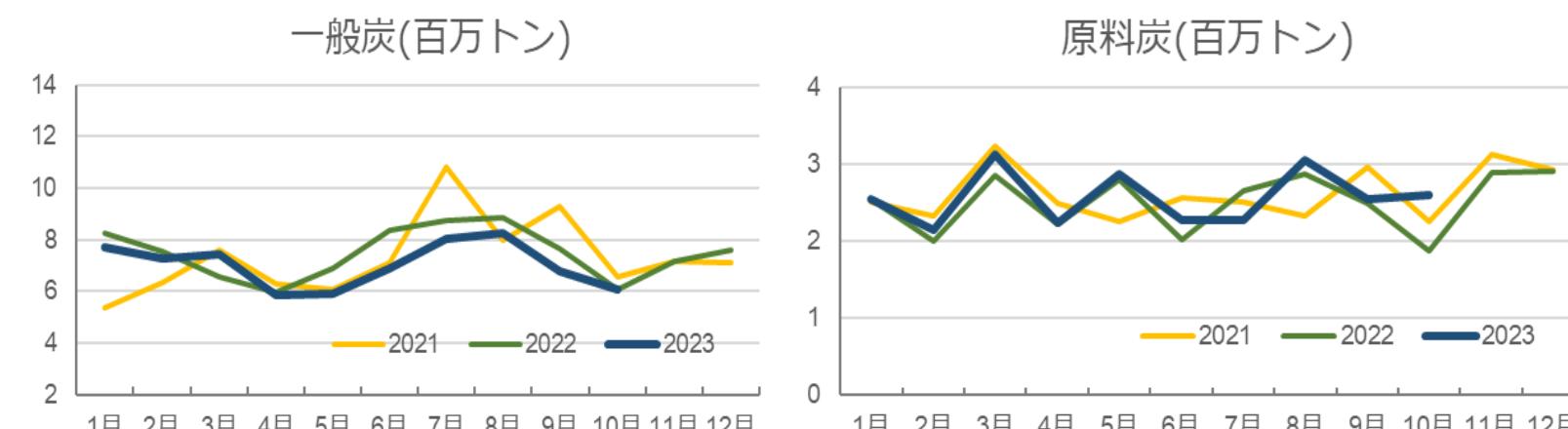
# 需要国の状況（日本・韓国）

- 日本(1-10月:カッコ内は前年比)
  - 一般炭:83.5( $\triangle 12.6$ )百万トン
  - 原料炭:52.2(+0.1)百万トン
- 在庫高による調達減及び原子力の再開による石炭火力稼働減から一般炭の輸入量が大きく減少。
- 鉄鋼生産は前年比減であるが、輸入量への影響はあまり出でていない。



出所: 日本貿易統計

- 韓国(1-10月:カッコ内は前年比)
  - 一般炭:70.2( $\triangle 4.7$ )百万トン
  - 原料炭:25.6(+1.3)百万トン
- 電力需要が低調。
- 鉄鋼生産は日本同様に前年比減であるが輸入への影響は出でていない。



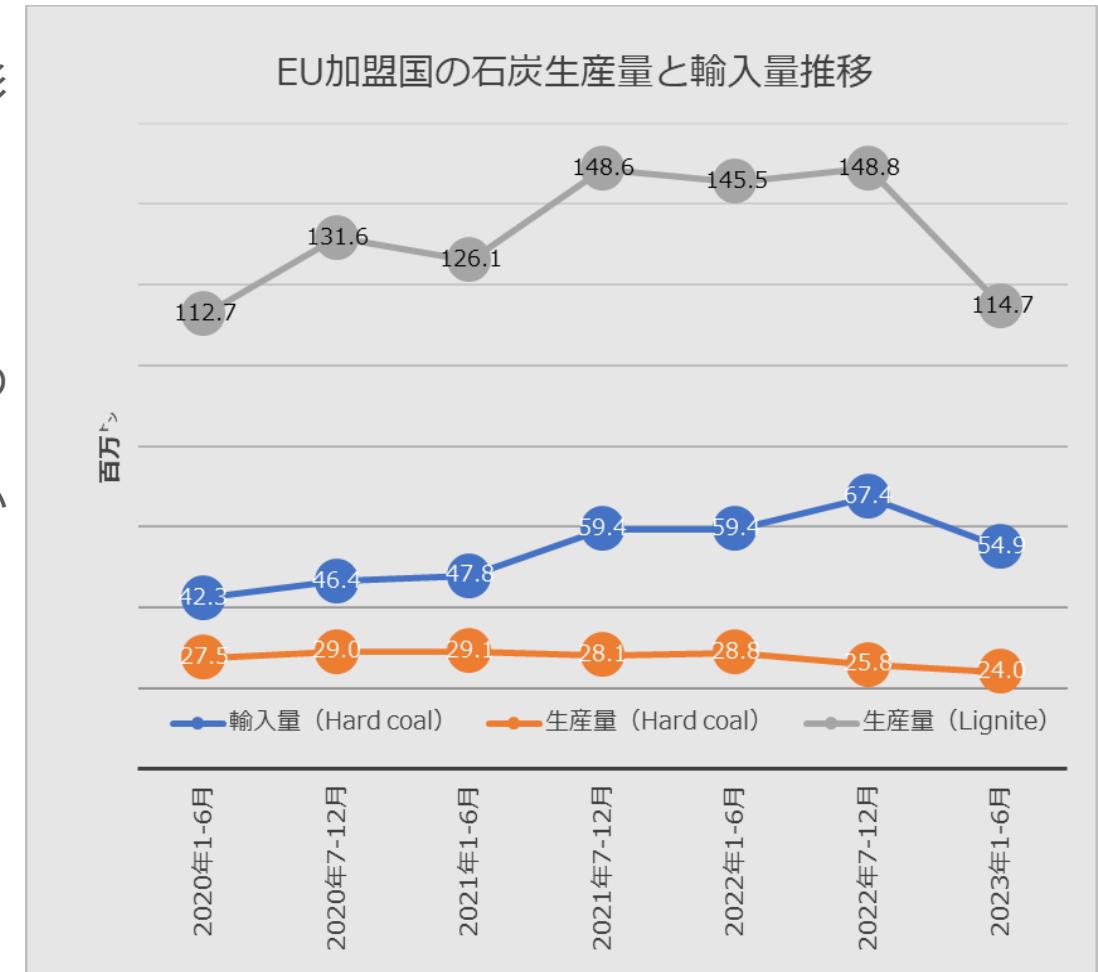
出所: TEXレポート、Coal Monthly Statistics

# 需要国の状況 (EU)

- 褐炭は、EU加盟9カ国で生産中。2023年上半期の褐炭生産量は114.7百万トン(前年同期比△21.2%)。
  - ✓ ドイツでは、エネルギー集約型産業のエネルギー需要減影響から、生産量は53百万トン(同△17.8%)と大幅減。
- 2023年上半期の瀝青炭輸入量は54.9百万トン(同△7.5%)、瀝青炭生産量は24.0百万トン(同△16.6%)。
  - ✓ EU各国のエネルギー市場がCovid-19とその後遺症で混乱し、ウクライナと中東の紛争に対応しているため、近年の変動が大きく不安定。
  - ✓ 電力向け燃料としてウクライナ侵攻によるガス供給懸念から、一時的に石炭需要が増加。
- 足元では、LNG供給拡大から石炭への依存が下がっている。また2022-23年冬季の暖冬や2023年の経済活動が弱いこともあり、電力需要そのものが減退し、石炭利用減になっている(下表)→今後もこの傾向が続くと予測。

EU加盟国の石炭火力向石炭供給量

単位 百万トン	2022年1-6月	2023年1-6月	増減	
褐炭	133.0	102.6	-30.4	-22.9%
瀝青炭	41.6	34.2	-7.4	-17.8%



出所: EURACOAL, "EURACOAL Market Report"

# 供給国の状況(豪州、 インドネシア)

## 豪州(1-10月:カッコ内は前年比)

Newcastle輸出量 116.9(+3.6)百万トン

QLD州合計輸出量 163.2(+4.5)百万トン

- Newcastle積では、一般炭の出荷が低調。生産回復するも、主要国(日韓)の石炭需要が弱いことから伸び悩み。  
→生産は回復も輸出量は一昨年対比で大きく劣後
- 一方でNQET積は、インド・中国向けを主体に新規開発された鉱山からの一般炭が伸びている。

## インドネシア(1-9月:カッコ内は前年比)

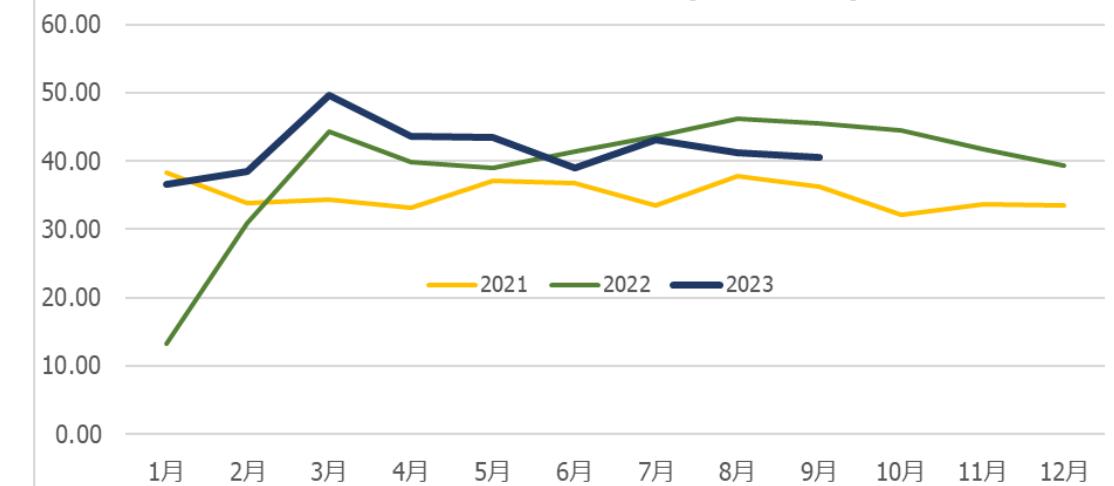
合計輸出量 375.4(+31.3)百万トン

- 2022年輸出は、輸出許可停止や天候要因のため年初が低調だったこともあり、2023年は前年比で大幅増。
- 特に中国・インド向け出荷は堅調。

## 豪州炭輸出量推移(1-10月)

積出港	百万トン	CY2021	CY2022	CY2023	CY2023/ CY2022増減
Newcastle	131.5	113.3	116.9	3.6	
NQET	24.1	25.5	28.5	3.0	
Hay Point	38.4	37.6	32.8	-4.8	
Dalrample Bay	45.1	42.8	48.6	5.9	
Gladstone	57.3	51.1	51.3	0.1	
Brisbane	3.1	1.7	1.9	0.2	
QLD州計	168.0	158.7	163.2	4.5	

## インドネシア炭輸出量(百万トン)



注: 豪州の輸出量は、Port Kembla港を除く

出所: 豪州: North Queensland Bulk Terminal, Newcastle Port, Gladstone Port, Brisbane port ホームページ  
インドネシア: BPS (Statistics Indonesia)

# 短期間での影響

## 1. 中国とインド

- ✓ 石炭の大生産国であり消費国。足元は需要>生産であり、輸入炭はギャップを調整。2023年は、ロシア炭の受け入れ増加もあり、貿易市場に目立った影響はなかった。今後も暫く需要増が続くと見られるが、国内炭の供給不足から、輸入炭調達増→石炭貿易需給タイト化懸念があり注意が必要。

→これまで通り需要増に対して、国内炭増産も堅持されるというバランスで市況を予測。

## 2. 豪州

- ✓ 権益移動……資源会社による石炭権益売却、組織再編(石炭鉱山spin off)
- ✓ 豪州の政治システムによる環境政策と石炭産業政策・税収のねじれ

連邦:環境政策強化(Safeguard Mechanism)……管掌政府:ガス(連邦)/石炭(州)→政府間に温度差

州:雇用維持/産業発展、Royaltyアップ……石炭産業との向き合い方は重要→Royalty対応は懸念材料

→2024年単年の影響は小さい。2050年ネット・ゼロに向け出される政策が中期的な石炭供給力へ影響を与える可能性があることに注意する。

## 3. インドネシア

- ✓ 国内供給を優先する国内供給義務(DMO)の運用動向など、2024年2月大統領選後の政策に留意。
- 2024年一般炭輸出量は前年比+15百万トンと予測。